

館長対談

野澤日出夫氏をゲストに



遠山茂樹館長

今回の対談は、幕末の外国奉行のことに対する特別の関心を持ちながら、資料館の市史講座を開講当初から熱心に受講されてきた野澤日出夫さんをお迎えし、受講されての「ご感想やご意見を率直にうかがうことにしました。

うが多いです。ちょうどそのとき、横浜開港資料館で横浜の歴史講座を開講するという話をきいたものですから、ぜひとも受講し、疑問点が解ければと思つたらしいです。

市史講座では、開国・開港館長

最初に、野澤さんが市史講座を受講されようとした動機についてお話しいただけたらと思うんですけど。

野澤 私は三十年前に東京から横浜へ引越しして来たんですが、その引越し先が神奈川県立図書館のそばでした、その跡が横浜開港当時の神奈川奉行所のあった場所だと知りました。そこで、この奉行所や奉行についての興味を持ち、一般の文献や関係の記録を調べるようになつたわけです。その過程で、私なりに横浜のこまごまとしたことに興味を持ち、その解明に楽しさを感じるようになりました。

野澤 「難しさ」ということですが、とどろがわからぬことのほ

的に実施している講座はこの資料館以外どころにもなく、受講者にとってほんとうに有益な講座だと思っています。

館長 講座のねらいは、あまり知識をお持ちでない方でも気軽に参加していただき、横浜の歴史に興味を持っていただくということです。

そして、終局的なねらいとしては、横浜の歴史に対しう自分を取り組んでいただくということです。それまでの間のお伝いをさせていただくのが私どもの役割です。

野澤 でも、それまでの間のお伝いをさせているのが私どもの役割であると考えているんですが、こうした講座のあり方に對し、率直なご感想やご意見をいただけたらと思います。

市史講座では、開国・開港

館長 最初に、野澤さんが市史講

座を受講されようとした動機につ

いてお話しいただけたらと思うんですけど。

野澤 私は三十年前に東京から横

浜へ引越しして来たんですが、その

引越し先が神奈川県立図書館のそ

ばでした、その跡が横浜開港当時の神奈川奉行所のあった場所だと

野澤 「難しさ」ということですが、とどろがわからぬことのほ

樂しい資料館

す。専門家の目だけではなく、市民の目を用意する必要がありそうです。

地域全体が資料館

一方、なんでもかでも集めて持ち込んでしまうのは考え方の違いです。

私は「楽しい資料館」を念頭に思っています。

では楽しい資料館造りの基本的な考え方方は、ということになります。

モードはやはり現実のモノの魅力にあると思いま

す。世はまさに情

報化時代。居ながらにして映像・音

声・文字の情報に接することが十分

できるほど可能で

ます。氾濫している

といつてもよいでしょう。そう

した中で、忙しいのにノコノコ

と離れた場所まで身体を運ぶ。

その魅力はやはりモノにあるの

ではないでしょうか。自分で見

て触れて、そして自分なりの

自分の発見がある。そこに

導のシステムを完備している

あの場所、あるいは

はどうぞこの人とか施設、そうした

モノ(?)を常に有

機的に把握してお

いて、そこへの誘

い資料館になるでしょう。

幸い財團法人・横浜開港資料

普及協会があります。その協会

の目的もここにあるように私に

は思われます。巨大な目に見え

ない資料館が着々と造られて

いるのは、思つただけでも胸があ

どるものがあります。



（東京大学教授村松貞次郎）

元横浜開港資料館設立研究委員



野澤日出夫氏

しがちですが、このたびの展示(生糸貿易の幕あけ)で豊富な原資料に接したり、講演(萩原進先生の「横浜開港と上州」)を聴いたり、

映画(絹の道)を鑑賞したりするなど、とても親しみをもてるし、今まで考えもしなかつた興味もわいてきます。受講者のみなさんも同じ感想をもっておられるのではないかと思います。

また、大正期の鉄道の講座がありましたが、受講者の中に古い停車場のことを知っている方がおられ、その史跡を見学する機会に恵まれたこともあり、この講座を契

機に受講者の輪が広がつたりしました。この時、受講者以外の方の参加もみられ、新しい史跡散歩の仲間もできました。

次に要望なのですが、古文書解説会とか資料講読会を同時に開講されていますけれども、その講座の内容を市史講座受講者へも適宜お知らせいただけたらと思います。関心ある資料や内容に接することができれば幸いです。

した。わが国人たちは、これらの外国人と接することによって新しい西洋文化を吸収していくためです。しかも鎖国時代の長崎とは違つて、英米人が多数を占めていたので、日本人の中にも英語を学び、英学を志す人々が多くなりました。こうした新しい西洋文化との間に協力した日本人に、画家岸田劉生の父である岸田吟香がおり、聖書の翻訳には奥野昌綱、高橋五郎、松山高吉らが協力しています。また、西洋の學問を志す人々を教育して人材を育てるかたわら、医術を生かして多くの病人を無料で治療しましたが、彼に学んだ人々の

館長 地域に住んでその地域の歴史に興味を持つのは人間の本性みたいなものだと思いますが、ところが地域の歴史はこまかくて一般的に載らないことが多いのではないかと思います。そこで、地域の歴史は地域の人々が講座などを通じて自分で調べ明らかにして行くことが大事で、その地域史を通して全国史と対応させてみていく必要があるかと思います。

館長今日はお忙しいところお出いただき、貴重な意見ありがとうございます。(去る四月六日の対談です)



ヘボン、正しくはジェームス・

「ヘボンと横浜」展 (4/27 ~ 7/31)

~日本医史学会総会も開催~

カーチス・ヘップバーン。ヘボン式ローマ字やわが国で初めての和英辞典「和英語林集成」を完成させたことで有名です。しかし、医者として、また教育者としてのヘボンを知っている人は案外少いのではないでしょうか。この展示では、三十三年間も横浜に住んで、近代日本の発展に寄与したヘボンの多方面にわたる功績と彼に学んだ多くの日本人を紹介します。

出あいのなかで、大きな役割を果したのがヘボンです。

ヘボンは開港の年、キリスト教伝道のために来日しましたが、当時は日本人への布教が許されていませんでした。伝道活動の基礎となる日本語の習得に多くの時間をさぎ、和英辞典の編さんや聖書の翻訳を行いました。辞典の編さん

中には、政治家の大村益次郎、後の首相高橋是清、実業家の益田孝、外交官の林董などがいます。

今年は五月二十一・二十二日に

第八十四回日本医史学会総会(名譽会長・細郷市長)が横浜で開催

される。これ機に、もう一度

ヘボンと横浜について考えてみた

いと企画しました。

ヘボンと横浜について考えてみた
いと企画しました。



資料館の四月から八月までの主要行事予定とその概要についてお知らせします。

▽展示の開催 本年度第一回目の展示として「ヘボンと横浜」展を四月二十七日から七月三十一日まで開催しています。

▽講座の開催 (1) 横浜市史講座第一期(4月25日・6月・7月)が開催されます。講師・講座名は次のとおりです。古島敏雄東大名譽教授

第八十四回日本医史学会総会(名誉会長・細郷市長)が横浜で開催されます。これ機に、もう一度

ヘボンと横浜について考えてみた
いと企画しました。

授・開港以前の横浜(5/7・14)

南和男・都立航空工高専教授・幕

末の江戸と横浜(5/21・28)

林

玲子・流通経済大学・開港期の商

業と貿易(6/4・18)

川崎平太

早大専任講師・木綿の貿易と世界

市場(6/25・7/2)

楠井敏明

横浜国大教授・開港期の国際情勢

(7/9・16)

幕末期の横浜について

都市・交通・国際関係・貿易等の多角的な面からそれぞれお話を聞いていただく予定です。(2) 古文書を読む会(4月分から翌年2月まで)が開催されています。市内旧家に保存されている古文書を題材として解説の技術を修得することを目的とした講座で、講師は郷土史家の内田四方藏氏です。(3) 資料講読会前期(4月から9月まで)が開催されています。資料館所蔵の海外資料の中から題材をとり催される講座で、前期は「ハリスの日記」を読む会です。講師は石井孝津田塾大学教授です。(4) こども歴史講座は7/26・29日の四日間、午前中は小学生(五年生以上)、午後は中学生を対象に開催の予定。



「展示」二月一日から『生糸貿易の幕あけ』展を開催しました。生糸売込商・吉村屋幸兵衛と蚕種製造家・田島弥平や栗原勘三などの活躍を中心とした展示で、売込に関する書簡・帳簿・写真などを出陳し好評を得ました。

『講演』四月三日に『生糸貿易の幕あけ』展の記念講演として、萩原進・群馬県史編さん委員に「横浜開港と上州」と題し講演してもらいました。それと併せて資料館作製の映画「絹の道—上州から横浜へ」を上映しました。

【講座】石井孝・津田塾大学教授を講師に招き資料講説会「ハリスの日記」を二・三月（毎月第四土曜日）に開催しました。

本年一月から四月までの間の資料館のおもな行事等の開催及び結果をお伝えします。

横浜開港を記念して行われている恒例のみなと祭が今年もまた五月二日の「国際仮装行列」前夜祭パレードに始まり、いろいろな楽しい行事が行われます。この行列は国際港都ヨコハマにふさわしい国際色豊かなパレードとして人気を呼んでおり、六十一団体二十一台のフロートが参加し、五月三日に山下公園をスタートします。また、五月二十七日から六月二日までは横浜公園とスタジアムで「開港記念バザー」が開かれ、輸出入商品や花と木等が展示即売されます。五月二十八日と二十九日には、大通公園石の広場で「世界の

みなと祭りと開港記念日

新しい記念行事として定着した「横浜どんたく」が山下公園や大通りで行われます。

ところで、これらの記念行事はいつから始まつたのでしょうか。

お茶と音楽と踊りをあなたに』が開かれる予定です。開港記念日の六月二日には、横浜文化体育館で開港百二十四周年の記念式典が行われるほか、横浜港内見学会も催

【講座】石井孝・津田塾大学教授を講師に招き資料講説会「ハリスの日記」を二・三月（毎月第四土曜日）に開催しました。

『その他』三月二十二日と二十三日の二日間にわたりて、収蔵資料の殺虫・くん蒸を行いました。

また、より良い資料館をめざして、利用者の方々に率直な意見を伺えるよう、二月二日から二階通路の休憩所に「自由帳」を備えましたので、ご感想等どしどしご記入ください。

資料館は来る六月二日で満二周年日を迎えます。資料収集・保存



に発見されたものです。わが国最初の近代下水道でもあり、貴重な土木遺構として皆さんにご覧いただけるように現物保存し

たもので、開港広場のマンホールにつながっています。設計者は神奈川県土木課御用掛の三田善太郎（一八五六～一九二九）

（佐五月）明治十四年から二十年にかけて外国人居留地全域にわたって敷設されたレンガ造りの下水道管の一部で、資料館建設のとき



資料館の

地下閲覧室

に

最初の近代下水道でもあり、貴重な土木遺構として皆さんにご覧いただけるように現物保存し

たもので、開港広場のマンホー

ルにつながっています。設計者は神奈川県土木課御用掛の三田善太郎（一八五六～一九二九）です。



ださい。

